

調査研究成果の概要、所見

昨年、平成28年12月22日出火。強風により鎮火まで約30時間の大火災が発生した新潟県糸魚川市。本年8月23日付新聞報道により復興5カ年計画との新聞記事を目にしたことから視察研修することとなりました。

平成28年高知県地震火災対策指針において香美市土佐山田町では、広範囲の地域が指定されています。

糸魚川市役所では、復興推進課復興係2名の主査から、当時の火災状況、そして復興に向け、これまでの取組みの説明を受けた後、質疑をさせて頂きました。

被災地域は、古い住宅が密集し、当時テレビ報道でも目にしたように強風のなか消火活動が進まなかったようです。早期復興を目指し、市民、地域、事業者、行政等の関係者が復興まちづくりに対する考え方を共有するための基本方針を示すとともに、その実現に向けた具体的な施策の取りまとめ復興まちづくりを迅速かつ着実に推進していくことを目的として取り組まれています。1日も早い復興を只々祈るばかりです。

2日目は、平成16年10月23日に発生した新潟県中越地震で多大な被害を受け全村民が避難された新潟県長岡市山古志(当時、山古志村)を視察しました。

村内の被害状況の詳しい説明を受けた後、今なお土砂の下に沈む水籠^{こごも}集落などを職員のはからいで現地視察することができました。

当時の状況、そして復興への道のりについての説明場所は、長岡市役所に隣接し建てられている震災の経験と山の

暮らしを伝える「やまこし復興交流館 あらたる」でした。復興館の2階には、当時の痛々しい村内の被害状況が写真パネルで展示され、その被害の大きさを新めて痛感しました。写真パネルの説明員青年は、当時、小学生だったとのことで当時の鮮明な記憶と折りませた説明には感動しました。

長岡市陽光台応急仮設住宅では、村民の日頃の人間関係に細かな気配りをされ、声掛けのできる親しい方を隣りどうしに入居させたようです。そのことにより孤独死はゼロだったとの事です。大切な事だと思いました。

糸魚川市、旧山古志村の視察は非常に充実した参考になる研修ができたと思います。

公明党 比与森 光俊